

2023 年度
北里大学外部評価報告書
【入学試験の選抜方法】
【学修ポートフォリオの実施・運用】

2024 年 3 月 29 日
株式会社高等教育総合研究所

第1章 2024年度入学試験の選抜方法について

評価の観点：

2024年度入学者選抜方法はアドミッション・ポリシーに沿ったものとなっているか
(学部、大学院共通)

1. 学部

【薬学部 薬学科】

《概評》

薬学部薬学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、薬学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、数学、理科、英語の学力を教科試験、基礎学力検査、高等学校の調査書等により判定しており、最新の薬学を修得する能力と将来に薬剤師等として活躍する素養を確認しているといえる。また、入試区分に応じて、面接や小論文を選考方法に追加することで、適正な入学者選抜が可能となるよう補完している。

以上のとおり、薬学部薬学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（公募制）では、薬学部志願者に限定した調査書補助書類を用いて、学校生活での取り組みや課外活動等を把握するとともに、面接時には調査書補助書類に記入された内容に関する努力のプロセスや学びの意欲を評価しており、当該入試区分の特性を考慮した工夫がなされている。

《課題》

特になし。

【薬学部 生命創薬科学科】

《概評》

薬学部生命創薬科学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、生命創薬科学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、数学、理科、英語の学力を教科試験、基礎学力検査、

高等学校の調査書等により判定しており、最新の薬学を修得する能力と創薬科学分野をはじめとする様々な分野で活躍する素養を確認しているといえる。また、入試区分に応じて、面接や小論文を選考方法に追加することで、適正な入学者選抜が可能となるよう補完している。

以上のとおり、薬学部生命創薬科学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（公募制）では、薬学部志願者に限定した調査書補助書類を用いて、学校生活での取り組みや課外活動等を把握するとともに、面接時には調査書補助書類に記入された内容に関する努力のプロセスや学びの意欲を評価しており、当該入試区分の特性を考慮した工夫がなされている。

《課題》

特になし。

【獣医学部 獣医学科】

《概評》

獣医学部獣医学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、獣医学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、数学、理科、英語の学力を教科試験、基礎学力検査、高等学校の調査書等により判定しており、獣医学を学ぶための基本となる論理的思考力・理解力・表現力・問題発見能力や獣医学への意欲を備えた入学者を選抜しているといえる。また、入試区分に応じて、面接や小論文を選考方法に追加することで、適正な入学者選抜が可能となるよう補完している。

その他、入試区分を幅広く設けていることは、本学科における入学者選抜方法の特色ともいえる。例えば、本学科に限り設定する地域枠特別選抜試験では、地域獣医療への深い関心と地域産業への貢献に強い意志をもった学生の選抜を実施している。帰国生徒特別選抜試験では、優れた語学能力と国外経験を生かし、国際的な規模で活躍できる人材の獲得を図っている。

以上のとおり、獣医学部獣医学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【獣医学部 動物資源科学科】

《概評》

獣医学部動物資源科学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、動物資源科学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、入試区分に応じて、数学や理科を中心とした教科試験、講義理解力試験、大学入学共通テストの得点、小論文、面接、高等学校の調査書等により判定している。これにより、動物資源科学の知識をより深く追求し、自ら学ぼうという意欲を有するとともに、動物資源科学を学ぶための基礎的な知識等を有する入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学部動物資源科学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学生募集要項では、「総合型選抜試験で求める学生像（期待する学生）」として、入学後の学びを含めて具体的に説明している。これは、アドミッション・ポリシーへの理解を深める効果が期待できる取組みであり、評価できる。

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するために口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

2024年度入試では、学校推薦型選抜試験（指定校）で15名の増、一般選抜試験（前期）及び同（中期）で計30名の減などの募集人員の大幅な変更が行われた。また、学校推薦型選抜試験（公募制）における学習成績状況の基準撤廃や共通テストプラス入試の廃止が行われている。2025年度入試においても、複数の入試区分で出題範囲等の変更が予定されていることから、入学志願者には十分な周知を行い、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を継続していくことが課題である。

【獣医学部 生物環境科学科】

《概評》

獣医学部生物環境科学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、生物環境科学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、入試区分に応じて、数学や理科を中心とした教科試験、講義理解力試験、大学入学共通テストの得点、小論文、面接、高等学校の調査書等により判定しており、人間社会と自然生態系との共生や地球環境の保全に強い関心を持ち、生物環境科学科で学ぶために必要な基礎知識と論理的な思考力・表現力・問題解決能力を備えた入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学部生物環境科学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学生募集要項では、「総合型選抜試験で求める学生像（期待する学生）」として、生物環境科学科で重視する「フィールドでの実習教育」も含めた具体的な説明がある。これは、アドミッション・ポリシーへの理解を深める効果が期待できる取組みであり、評価できる。

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【医学部 医学科】

《概評》

医学部医学科のアドミッション・ポリシーについては、選抜者基本方針にて「学力試験の結果を尊重することはもとより、将来医師となるべき資質、能力をも含め、総合的な判定による入学者の選抜」と定めている。また、「求める学生像」に6項目を示している。これらを踏まえ、医学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、理科、数学、英語の教科試験もしくは基礎学力検査にて医学の習得に必要な基礎学力を判定している。また、論理的に思考・判断し表現する能力を論文試験で判定している。さらには、面接試験では、将来医師となることを見据えて、人物や意欲等を判定している。

以上のとおり、医学部医学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・

ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

全ての入試区分において、大学独自の教科又は基礎学力試験、論文、面接のいずれも実施していることは、アドミッション・ポリシーとの整合性が極めて高く、評価できる。

《課題》

特になし。

【海洋生命科学部 海洋生命科学科】

《概評》

海洋生命科学部海洋生命科学科のアドミッション・ポリシーについては、「学位授与方針」に示した各能力の修得に熱意を持つ入学者を選抜すること」を選抜者基本方針としており、「求める学生像」には8項目を示している。また、海洋生命科学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、入試区分に応じて、数学、理科、英語の教科試験、大学入学共通テストの得点、小論文、面接、高等学校の調査書等により判定している。これらの判定において、ディプロマ・ポリシーに示した各能力（多面的思考能力、自然科学の基礎知識・理論、専門分野の知識・技術など）を修得できる素養と学習意欲を持つ入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、海洋生命科学部海洋生命科学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

海洋生命科学部海洋生命科学科では、北里大学の全学科のうち、「求める学生像」に最多の8項目で詳細に示している。内容が多岐に及ぶことを踏まえ、毎年度の入学者選抜方法を検討するにあたっては、引き続き、アドミッション・ポリシーとの整合性等を慎重に確認していくことが課題である。

【看護学部 看護学科】

《概評》

看護学部看護学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、「選抜者基本方針」を定めている。また、看護学科の入試区分別に「入学者選抜方針」

として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜では、学校推薦型選抜試験（指定校）にて小論文、面接、高等学校の調査書で判定している。一般選抜試験では、学力検査（英語、数学または理科）、小論文、高等学校の調査書で判定している。社会人・学士特別選抜試験では、英文読解、小論文、面接により判定している。これらの入学者選抜では、学力の3要素を備え、かつ一人ひとりの特色のある考え方や人間性や、広く看護の場で活躍したいと希望する積極性などが総合的に勘案されており、看護専門職者としての基礎的知識や意欲を有する入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、看護学部看護学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【理学部 物理学科】

《概評》

理学部物理学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、物理学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、高校までの基礎学力について、数学、理科、英語の教科試験や小論文、高等学校の調査書等で確認している。学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）では、教科試験を課さないが、調査書にて理科、数学、英語の成績と理科の履修状況を重視するとともに、小論文試験では英語の文章を用いて、英語の基礎学力も確認している。これらにより、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎学力や論理的思考力等を備えた入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学部物理学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【理学部 化学科】

《概評》

理学部化学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、化学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、高校までの基礎学力について、数学、理科、英語の教科試験や小論文、高等学校の調査書等で確認している。学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）では、教科試験を課さないが、調査書にて理科、数学、英語の成績と理科の履修状況を重視するとともに、小論文試験では英語の文章を用いて、英語の基礎学力もあわせて確認している。これらにより、化学科での学びに向けて、基礎学力と論理的思考力を備え、知的好奇心や問題解決への意欲、探求心等を有する入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学部化学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【理学部 生物科学科】

《概評》

理学部生物科学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。さらには、生物科学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、高校までの基礎学力について、数学、理科、英語の教科試験や小論文、高等学校の調査書等で確認している。学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）では、教科試験を課さないが、調査書にて理科、数学、英語の成績と理科の履修状況を重視するとともに、小論文試験では英語の文章を用いて、英語の基礎学力も確認している。これらにより、基礎学力に基づく論理的思考力を備え、社会の一員としての認識・協調性や

生命科学の探求意欲等を有する入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学部生物科学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 保健衛生学科】

《概評》

医療衛生学部保健衛生学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、保健衛生学科の2コース制（「環境保健」「臨床心理」）にて予防医学を学び、社会に貢献する素養を有するものを選抜しているといえる。

以上のとおり、保健衛生学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 医療検査学科】

《概評》

医療衛生学部医療検査学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、理数系及び英語の基礎知識を有し、臨床検査技師または医療医術者として不可欠なコミュニケーション能力に優れたものを選抜しているといえる。

以上のとおり、医療検査学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 医療工学科（臨床工学専攻）】

《概評》

医療衛生学部医療工学科（臨床工学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力

やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、臨床工学への興味と意欲があり、理数系の基本事項等を理解し、工学と技術を通じて医療を支えることに挑戦する素養のあるものを選抜しているといえる。

以上のとおり、医療工学科（臨床工学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 医療工学科（診療放射線技術科学専攻）】

《概評》

医療衛生学部医療工学科（診療放射線技術科学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、理数系の基本事項等を理解し、コミュニケーション能力を身に付け、英語の資格等に挑戦できる素養のあるものを選抜しているといえる。

以上のとおり、医療工学科（診療放射線技術科学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 リハビリテーション学科（理学療法学専攻）】

《概評》

医療衛生学部リハビリテーション学科（理学療法学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物、国語から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、理学療法士になる意思が明確で、コミュニケーション能力を有し、社会の要請に応えるための努力を惜しまないものを選抜しているといえる。

以上のとおり、リハビリテーション学科（理学療法学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 リハビリテーション学科（作業療法学専攻）】

《概評》

医療衛生学部リハビリテーション学科（作業療法学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物、国語から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力

やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、作業療法士として社会貢献する意欲が明確で、文章読解力、文章作成能力、論理的思考能力を身に付け、他者に対する優しさを持ったものを選抜しているといえる。

以上のとおり、リハビリテーション学科（作業療法学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 リハビリテーション学科（言語聴覚療法学専攻）】

《概評》

医療衛生学部リハビリテーション学科（言語聴覚療法学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物、国語から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、言語聴覚士として社会貢献する意欲が明確で、文章読解力、文章作成能力、論理的思考能力を身に付け、コミュニケーション能力に優れたものを選抜しているといえる。

以上のとおり、リハビリテーション学科（言語聴覚療法学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療衛生学部 リハビリテーション学科（視覚機能療法学専攻）】

《概評》

医療衛生学部リハビリテーション学科（視覚機能療法学専攻）のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、学部共通の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、一般選抜試験にて、学力検査（英語の他は、数学、物理、化学、生物、国語から選択）と高等学校の調査書を総合的に判定している。これは、高等学校の教科書レベルの基本事項への理解やその問題解答能力を確認するものである。

また、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）、総合型選抜試験、社会人特別選抜試験、編入学選抜試験では、小論文及び面接を実施するとともに、調査書や出願理由書、推薦状、自己推薦書等の入試区分に応じた書類も総合して判定している。これは、文章理解・表現力やコミュニケーション能力を身に付け、論理的思考に優れたものを選抜するものである。

各入試区分では、視能訓練士になる強い意志を持ち、高等学校の教科書レベルの基本事項を理解し、コミュニケーション能力と協調性を身に付けているものを選抜しているといえる。

以上のとおり、リハビリテーション学科（視覚機能療法学専攻）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【未来工学部 データサイエンス学科】

《概評》

未来工学部データサイエンス学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、「選抜者基本方針」を定めている。また、データサイエンス学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜においては、数学及び英語の基礎学力を教科試験や大学入学共通テストの得点、高等学校の調査書で確認している。総合型選抜試験及び学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制度）では、教科試験等を課さないが、出願資格に高等学校での数学の学習成績に基準を設けている。総合型選抜試験では、講義理解力試験として、数理的内容を含めた講義を受講して論述する方法を用いている。これらにより、データサイエンス学科の学

びに向けて、基礎学力を有し、これに基づく筋道立った思考力を備え、かつ知的好奇心が旺盛な入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、未来工学部データサイエンス学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）の面接において、基礎的な学力を確認するための口頭試問を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【健康科学部 看護学科】

《概評》

健康科学部看護学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、看護学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜では、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）にて小論文、面接、高等学校の調査書等で判定している。一般選抜試験では、学力検査（英語、数学または理科）、小論文、高等学校の調査書で判定している。社会人特別選抜試験では、小論文、面接、出願書類等により志願者の能力・適正等を総合的に判定している。また、健康科学部看護学科では、総合型選抜試験の2次及び3次を実施しているが、選抜方法は総合型選抜試験（前期）（後期）と統一されている。これらの入学者選抜では、看護専門職者として社会貢献を目指す明確な意思をもち、基礎学力や豊かな感性、多様な人とのコミュニケーション力、探求心等をもつ入学者を選抜しているといえる。

以上のとおり、健康科学部看護学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【健康科学部 医療検査学科】

《概評》

健康科学部医療検査学科のアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」を明示した上で、入学者選抜方法として、学部共通の「選抜者基本方針」を定めている。また、看護学科の入試区分別に「入学者選抜方針」として、入学者に求める具体的な能力等を示している。

2024年度の入学者選抜では、学校推薦型選抜試験（指定校）（公募制）にて小論文、面接、高等学校の調査書等で判定している。一般選抜試験では、学力検査（英語、数学または理科）、高等学校の調査書で判定している。社会人特別選抜試験では、小論文、面接、出願書類等により志願者の能力・適正等を総合的に判定している。また、健康科学部医療検査学科では、総合型選抜試験の2次及び3次を実施しているが、選抜方法は総合型選抜試験（前期）（後期）と統一されている。これらの入学者選抜では、医療検査を学ぶための基礎学力や医学検査の知識を用いて社会に貢献する熱意を有し、他者との協調性や思いやりのある者を選抜しているといえる。

以上のとおり、健康科学部医療検査学科の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

2. 大学院

【薬学研究科 薬学専攻（博士課程）】

《概評》

薬学研究科薬学専攻（博士課程）のアドミッション・ポリシーについては、「選抜者基本方針」「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分にて志望専門分野指導教員の口頭試問を受け、出願を認められることを出願資格に含めた上で、推薦入学試験にて書類審査、一般入学試験にて専門科目 2 科目（志望専門分野の 1 科目及びそれ以外の 1 科目）と英語の筆記試験、面接試験、社会人特別選抜試験にて小論文及び口述試験を実施している。

一般入学試験及び社会人特別選抜試験では、出願前の口頭試問にて「志望専門分野を中心とした専門知識の修得度・熱意を確認する」とされており、さらには専門科目の筆記試験や小論文試験を実施することにより、医療を支える生命科学分野を担う専門職として、高い倫理観と先端的で高度な専門的知識や技能の修得に強い意欲を有し、将来、医療現場においてリーダーシップを発揮して活躍できる資質を備えた者を選抜しているといえる。

以上のとおり、薬学研究科薬学専攻（博士課程）の 2024 年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【薬学研究科 薬科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

薬学研究科薬科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各履修コースではそれぞれに「求める学生像」を定めている。また、各履修コースの入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野指導教員の口頭試問を受けて出願を認められることを出願資格に含めた上で、推薦入学試験にて書類審査、一般入学試験及び外国人留学生特別選抜試験にて専門科目 2 科目（志望専門分野の出題科目 1 科目及びそれ以外の 1 科目）と英語の筆記試験を実施している。また、臨床統計学履修コース及び医薬開発学履修コースでは、社会人特別選抜試験を実施しており、筆記試験（コー

スにより科目を設定) 及び口述試験を実施している。

これらの入学者選抜では、入学前の口頭試問や専門科目の筆記試験等により、高い倫理観と薬学関連分野の幅広い知識や問題解決技術の修得に強い意欲と能力を有し、専門領域において活躍できる資質を備えた者を選抜しているといえる。

以上のとおり、薬学研究科薬科学専攻(修士課程)の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

薬学研究科薬科学専攻(修士課程)では、複数のコース別に「求める学生像」「入学者選抜方針」が定められており、コース単位でアドミッション・ポリシーと合致した入学者選抜を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各履修コースではそれぞれに「求める学生像」を定めている。また、各履修コースの入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野指導教員の口頭試問を受けて出願を認められることを出願資格とした上で、一般入学試験及び外国人留学生特別選抜試験では筆記試験(専門分野1科目、英語)、社会人特別選抜では3つの履修コース別の筆記試験及び口述試験を実施している。

これらの入学者選抜では、入学前の口頭試問や専門科目の筆記試験等により、高い倫理観と先端的で高度な専門的知識や技能の修得に強い意欲を有し、将来、医療現場においてリーダーシップを発揮して活躍できる資質を備えた者を選抜しているといえる。

以上のとおり、薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

薬学研究科薬科学専攻(博士後期課程)では、複数のコース別に「求める学生像」「入学者選抜方針」が定められており、コース単位でアドミッション・ポリシーと合致した入学者選抜を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【獣医学系研究科 獣医学専攻（博士課程）】

《概評》

獣医学系研究科獣医学専攻（博士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、獣医学専攻（博士課程）としての「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、推薦入学試験及び外国人留学生特別選抜試験において、志望専門分野の指導教授との事前面談を終了することを出願資格に含めた上で、推薦入学試験では面接試験や出願書類等、外国人留学生特別選抜入学試験では筆記試験（専門分野1科目、英語）や面接試験、出願書類等で判定している。一般入学試験及び社会人特別選抜試験では、筆記試験（専門分野1科目、英語）、卒業論文等の試問、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜では、指導教授との事前面談や専門科目の筆記試験、卒業論文の試問等により、獣医学系への強い関心や学修・研究意欲等を有し、獣医学の研究学修にあたり自力での課題解決に努める者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学系研究科獣医学専攻（博士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

出願前の事前面談を出願資格に含めていない一般入学試験及び社会人特別選抜試験において、卒業論文等の試問を選抜方法に加えることにより、入学志願者の能力・適正等を判定していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【獣医学系研究科 動物資源科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

獣医学系研究科動物資源科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各専攻ではそれぞれに「求める学生像」を定めている。入試区分別に「入学者選抜方針」については、専攻別に定めている。

2024年度の入学者選抜では、推薦入学試験及び外国人留学生特別選抜試験において、志望専門分野指導教授との事前面談を終了することを出願資格に含めた上で、推薦入学試験

では面接試験や出願書類等、外国人特別選抜入学試験では筆記試験（専門科目、英語）や面接試験、出願書類等により判定している。一般入学試験及び社会人特別選抜入学試験では、筆記試験（専門科目、英語）、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜については、獣医学系研究科動物資源科学専攻における各入試区分の「入学者選抜方針」で具体的に示された内容と合致したものである。特に専門科目の筆記試験では6科目から志望分野1科目を課している。従って、獣医学系への強い関心や学修・研究意欲、動物資源科学の知識・技術を活かして社会貢献する意欲等を有し、課題解決能力や応用力を求める者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学系研究科動物資源科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

獣医学系研究科動物資源科学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、動物資源科学専攻（博士後期課程）としての「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、推薦入学試験において、志望専門分野指導教授との事前面談を終了することなどを出願資格に含めた上で、面接試験及び書類審査により判定している。一般入学試験及び社会人特別選抜試験では、筆記試験（専門分野1科目、英語）、修士論文等の試問、面接試験、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜入学試験では、志望専門分野指導教授による面接試験を受け、出願を認められることを出願資格に含めた上で、筆記試験（専門分野1科目、英語）、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学選抜では、面接試験や専門科目の筆記試験、修士論文等の試問等により、博士課程の高度な教育に対応できる学力を有するとともに、獣医学系への強い関心や学修・研究意欲、動物資源科学の高度な知識と技術を活かして社会貢献する意欲等を有し、課題解決能力や応用力を求める者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学系研究科動物資源科学専攻（博士後期課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

出願前の事前面談を出願資格に含めていない一般入学試験及び社会人特別選抜試験において、修士論文等の試問を選抜方法に加えることにより、入学志願者の能力・適正等を判定していることは評価できる

《課題》

特になし。

【獣医学系研究科 生物環境科学専攻（修士課程）】

《概評》

獣医学系研究科生物環境科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各専攻ではそれぞれに「求める学生像」を定めている。入試区分別に「入学者選抜方針」については、専攻別に定めている。

2024年度の入学者選抜では、推薦入学試験及び外国人特別留学生選抜試験にて、志望専門分野指導教授との事前面談を終了することなどを出願資格に含めている。その上で、推薦入学試験では、面接試験及び書類審査により判定している。一般入学試験、社会人特別選抜入学試験、外国人留学生特別選抜入学試験では、筆記試験（専門科目1科目、英語）、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜については、獣医学系研究科生物環境科学専攻（修士課程）における各入試区分の「入学者選抜方針」で具体的に示された内容と合致したものであり、獣医学系への強い関心や学修・研究意欲、生物環境科学分野で社会貢献する意欲等を有し、課題解決能力や応用力を求める者を選抜しているといえる。

以上のとおり、獣医学系研究科生物環境科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【海洋生命科学研究科 海洋生命科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、「選抜者基本方針」及び「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者

選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、推薦入学試験にて、海洋生命科学部での成績や TOEIC のスコア等を出願資格に含めた上で、口述試験及び出願書類等により判定している。一般入学試験、社会人特別選抜入学試験、外国人留学生特別選抜入学試験の各入試区分では、専門科目（分子生物学、生物海洋学、生化学）、TOEIC のスコア、口述試験により判定している。

これらの入学者選抜では、世界的な英語能力テストのスコアを出願資格もしくは判定に用いており、「学術論文の理解に必要な英語力」を客観性の高い指標で確認している。また、口述試験等により、海洋生命科学分野に対する強い知的好奇心を持ち、意欲的に研究を遂行する資質を確認している。

以上のとおり、海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻（修士課程）の 2024 年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻（修士課程）における「入学者選抜方針」については、全ての入試区分で「海洋生命科学分野の研究を遂行する上で必要な基礎学力と、学術論文の理解に必要な英語力を有し、意欲的に研究に取り組める学生」と統一されており、一貫性が高い入学者選抜を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、「選抜者基本方針」及び「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024 年度の入学者選抜では、一般入学試験、社会人特別選抜入学試験、外国人留学生特別選抜入学試験にて筆記試験（英語、専門分野 1 科目）及び口述試験等で判定している。専門分野としては、増殖生物学専門分野、環境生物学専門分野、応用生物化学分野の 3 分野を設定し、そのうち各 4 科目から 5 科目を選択することとしており、この筆記試験により志望する専門分野の知識等が確認されている。また、口述試験等では、海洋生命科学分野に対する強い知的好奇心を持ち、意欲的に研究を遂行する資質を確認している。

以上のとおり、海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻（博士後期課程）の 2024 年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻（博士後期課程）における「入学者選抜方針」については、「海洋生命科学分野の研究を遂行する上で必要な学力と、学術論文の作成に必要な英語力を有し、意欲的に研究に取り組める学生」に統一されており、一貫性が高い入学者選抜を実施していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【看護学研究科 看護学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

看護学研究科看護学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各コースではそれぞれに「求める学生像」を定めている。入試区分別に「入学者選抜方針」については、各コースで共通したものを定めている。

2024年度の入学者選抜では、一般入学試験において、出願資格に看護師資格を有することも含めた上で、筆記試験（英語、専門科目1科目）、面接試験、出願書類等により判定している。社会人特別選抜入学試験では、看護の実務経験4年以上を出願資格に含めた上で、筆記試験（英語）、面接試験、実務経験報告書、出願書類等により判定している。推薦入学試験では、出願資格を受入指導教員による事前面談を受けて推薦された者としており、書類審査及び面接試験により判定している。なお、高度実践看護学コースの出願資格には、看護学の実務経験と志望する専攻分野の実務経験を全ての入試区分で設定している。

これらの入学者選抜では、資格取得や実務経験等を出願資格に含めるとともに、専門科目や英語の筆記試験、さらには面接試験により、各専門領域の基礎的な知識や英語の読解力を確認しており、各専門領域における看護実践能力と基礎的研究能力、教育及び研究に対する探求心、高い倫理観等を有する者を選抜しているといえる。

以上のとおり、看護学研究科看護学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

社会人特別選抜入学試験の「入学者選抜者方針」では、「各専門領域についての看護実務経験」を有することを示している。出願書類の実務経験報告書では、実務経験の概要に加えて、志望分野の事例を記載する項目も設けており、専攻分野に関する実務経験を具体的に把握する取り組みがなされていることは評価できる。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示し、各コースではそれぞれに「求める学生像」を定めている。入試区分別の「入学者選抜方針」については、各コースで共通したものを定めている。

2024年度の入学者選抜では、一般入学試験において、筆記試験（英語、専門科目）、面接試験、出願書類等により判定し、高度な専門知識と臨床看護能力や看護・医療分野の英語読解力を持ち、論理的思考力に基づいた問題解決ができる者を選抜しているといえる。

推薦入学試験では、出願資格に志望専攻分野指導教員による事前面接を受けて推薦された者としており、書類審査及び面接試験（研究計画に関するプレゼンテーション）にて判定している。高度実践看護学（DNP）コースについては、専門看護師資格を有している者、もしくは5年以上の臨床経験に該当することも出願資格に含めている。これらにより、看護学の博士課程で研究を行うべき基礎的な能力を有することを確認している。

以上のとおり、看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【理学研究科 分子科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

理学研究科分子科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示した上で、分子科学専攻の「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野指導教授の事前面談を終了し、出願を認められる者（もしくは、推薦を受けられる者）であることを出願資格に含めている。推薦入学試験では、学部での成績が優秀であることも出願資格に追加し、面接試験や出願書類等で総合的に判定している。一般入学試験では、専門科目（基礎的分野（物理学・化学・生物科学）12分野のうち3分野）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等

により判定している。外国人留学生特別選抜入学試験では、専門分野（光物性物理学など7科目のうち1科目）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜では、専門科目の筆記試験や学部の成績等により、分子科学の研究に必要な学力を確認するとともに、面接試験や出願書類等の総合的な判定により、コミュニケーション能力や自然現象を物理的視点・化学的視点からより深く解明することに強い意欲をもつ者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学研究科分子科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

理学研究科分子科学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示した上で、分子科学専攻の「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望する専門分野指導教授の事前面接を終了することを出願資格としている。一般入学試験では、英語の筆記試験、修士論文等の口頭発表、面接試験、出願書類等により判定している。社会人特別選抜入学試験では、英語の筆記試験、面接試験、修士論文等の口頭発表、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜入学試験では、専門科目（光物性物理学など7科目のうち1科目）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜では、専門科目の筆記試験や修士論文の口頭発表等により、自然科学について、専門的な知識と解析能力を修得するとともに、博士後期課程の研究に必要な学力を確認している。また、面接試験や出願書類等の総合的な判定により、コミュニケーション能力や自然現象を物理的視点・化学的視点からより深く解明することに強い意欲をもつ者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学研究科分子科学専攻（博士後期課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【理学研究科 生物科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

理学研究科生物科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示した上で、生物科学専攻の「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野指導教授の事前面談を終了し、出願を認められた者（推薦を受けられる者）であることを出願資格に含めている。推薦入学試験では、学部での成績が優秀であることも出願資格に追加し、面接試験や出願書類等を総合的に判定している。一般入学試験では、専門分野（基礎的分野（物理学・化学・生物科学）12分野のうち3分野）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜入学試験では、専門分野（生命物理学など5科目のうち1科目）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜では、専門科目の筆記試験や学部の成績等により、生物科学の研究に必要な学力を確認するとともに、面接試験や出願書類等の総合的な判定により、生命現象の科学的解明への強い意欲や国際性、コミュニケーション能力をもち、生命科学を通じて社会に貢献したいと考える者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学研究科生物科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

理学研究科生物科学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、研究科としての「選抜者基本方針」を示した上で、生物科学専攻の「求める学生像」を定めている。また、入試区分別に「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望する専門分野指導教授の事前面接を終了することを出願資格としている。一般入学試験では、英語の筆記試験、修士論文等の口頭発表、面接試験、出願書類等により判定している。社会人特別選抜入学試験では、英語の筆記試験、面接試験、修士論文等の口頭発表、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜入学試験では、専門科目（生命物理学など5科目のうち1科目）と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。

これらの入学者選抜では、専門科目の筆記試験や修士論文の口頭発表等により、生命科学について、専門的な知識と研究技能を修得するとともに、博士後期課程の研究に必要な学力を確認している。また、面接試験や出願書類等の総合的な判定により、生命現象の科学的解明への強い意欲や国際性、コミュニケーション能力をもち、生命科学を通じて社会に貢献したいと考える者を選抜しているといえる。

以上のとおり、理学研究科生物科学専攻（博士後期課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【医療系研究科 医科学専攻（修士課程）】

《概評》

医療系研究科医科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、医療系研究科としての「選抜者基本方針」を示している。また、医科学専攻（修士課程）、医学物理士養成コース、臨床心理学コースのそれぞれに、「求める学生像」「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野受入指導教授による事前面談を受けて出願を認められた者（もしくは推薦を受けられる者）を出願資格に含めている。

推薦入学試験（臨床心理学コースを除く）では、北里大学の学部での成績が優秀であることも出願資格に含めており、学力試験が免除された場合、書類審査及び面接試験にて判定している。ただし、臨床心理学コースでは、心理学（基本）の筆記試験を免除していない。

一般選抜試験及び社会人特別選抜試験では、基礎的科学と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜試験では、基礎的科学試験もしくは英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。特別選抜試験では、学力試験が免除された場合、書類審査及び面接試験により判定している。なお、臨床心理学コースにつ

いては、一般入学試験、社会人特別選抜試験、外国人留学生特別選抜試験、特別選抜試験を実施していない。

これらの入学者選抜では、高度専門職業人を育成する医科学専攻修士課程として、それぞれのコースに関する基礎的知識を筆記試験や学部の成績等で確認している。また、「入学者選抜方針」では、共通して「研究方針が明確で、協調性・将来性を有する者」を希望すると示しており、面接試験等で各コースの研究等への動機・意欲とあわせて確認している。

以上のとおり、医療系研究科医科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

「求める学生像」等をコース単位でも設定し、特に臨床心理学コースでは募集する全ての入試区分で心理学の基本的な知識を筆記試験により確認していることは評価できる。

《課題》

特になし。

【医療系研究科 医学専攻（博士課程）】

《概評》

医療系研究科医学専攻（博士課程）のアドミッション・ポリシーについては、医療系研究科としての「選抜者基本方針」を示している。また、医学専攻（博士課程）としての「求める学生像」「入学者選抜方針」を定めている。

2024年度の入学者選抜では、全ての入試区分において、志望専門分野指導教授による事前面談を受けて出願を認められた者（もしくは推薦を受けられる者）を出願資格に含めている。

推薦入学試験では、北里大学の学部もしくは大学院の成績が優秀であることも出願資格に含め、基礎的科学試験を免除された場合、英語の筆記試験、書類審査、面接試験にて判定している。

一般入学試験、社会人特別選抜試験、外国人留学生特別選抜試験では、英語及び基礎的科学試験の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。外国人留学生特別選抜試験では、基礎的科学試験もしくは英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。特別選抜試験では、基礎的科学試験を免除された場合、英語の筆記試験、書類審査、面接試験により判定している。

これらの入学者選抜では、筆記試験や学部等の成績から英語文献の読解力を確認し、面接試験等では研究方針の明確さや協調性・将来性に加え、高度専門医療人を育成する医学専攻博士課程で研究する動機・意欲も確認している。

以上のとおり、医療系研究科医学専攻（博士課程）の2024年度入学者選抜方法について

は、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

【感染制御科学府 感染制御科学専攻（修士課程／博士後期課程）】

① 修士課程

《概評》

感染制御科学府感染制御科学専攻（修士課程）のアドミッション・ポリシーについては、「選抜者基本方針」及び「求める学生像」を定めた上で、入試区分別の「入学者選抜方針」を示している。

2024年度の入学者選抜では、一般入学試験及び社会人特別選抜入学試験において、専門科目と英語の筆記試験、面接試験、出願書類等により判定している。特別選抜試験では、学力試験を免除された場合、面接試験及び出願書類にて判定している。全ての入試区分では、生命科学に関する分野を専攻した者であり、かつ志望専門分野の指導教員との事前面談を終了していることも出願資格としている。これに加え、面接試験を実施することにより、感染制御や創薬への深い関心や研究への熱意等を確認している。また、筆記試験では、生命科学の専門分野を理解するための基礎的分野について十分な学力を有していることを確認している。

以上のとおり、感染制御科学府感染制御科学専攻（修士課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

特になし。

《課題》

特になし。

② 博士後期課程

《概評》

感染制御科学府感染制御科学専攻（博士後期課程）のアドミッション・ポリシーについては、「選抜者基本方針」及び「求める学生像」を定めた上で、入試区分別の「入学者選抜方

針」を示している。

2024年度の入学者選抜では、一般入学試験、社会人特別選抜入学試験、外国人留学生特別選抜入学試験にて専門科目と英語の筆記試験、口述試験、面接試験、出願試験等により判定している。全ての入試区分では、生命科学に関する分野を専攻し、志望専門分野の指導教員との事前面談を終了することも出願資格としており、さらには面接試験を実施することにより、感染制御や創薬への深い関心や研究への熱意、国際貢献への意欲等を確認している。また、筆記試験では、生命科学の専門分野を理解するための基礎的分野について十分な学力を有していることを確認しており、感染制御科学府感染制御科学専攻（博士後期課程）における研究推進のための資質や能力、創造力を兼ね備えた者を選抜しているといえる。

以上のとおり、感染制御科学府感染制御科学専攻（博士後期課程）の2024年度入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿ったものと判断できる。

《長所》

全ての入試区分において口述試験を実施し、修士課程における中間報告や研究業績についてのプレゼンテーションを実施するとともに、その内容への質疑応答を通じて、博士後期課程を専攻するにあたっての能力等を確認していることは評価できる。

《課題》

特になし。

第2章 学修ポートフォリオの実施・運用について

評価の観点：

- 1) ディプロマ・ポリシーの達成度を適切に評価できているか
- 2) 学修成果の把握が適切であるか
- 3) その他

【薬学部】

《概評》

薬学部では、最新の薬学的知識・技能や豊かな人間性、高い倫理観を備え、最先端の研究分野から医療現場まで幅広い領域における様々な活動に「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材を育成するために、学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、薬学科及び生命創薬科学科のディプロマ・ポリシーでは、修得すべき資質・能力を各5項目で示している。また、一般教育学部が管理・運営する一般教育科目では、6つの教育目標が設定されており、これらを各学科のディプロマ・ポリシーに加えて運用している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、各学科及び各学科の学年別の平均レーダーチャートも作成しており、現行カリキュラムにおいて、ディプロマ・ポリシーの各項目を満たすために必要な科目が十分に配置されていることを確認している。

2023年度の薬学部教育委員会では、学修ポートフォリオを活用して学修成果を把握した上で、教育活動の見直しを検討した。その結果、2024年度入学生より適用する新カリキュラムにおいて、より適正な科目配置を検討することとなった。

以上のことから、薬学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

特になし。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用す

ることが期待される。また、学修ポートフォリオの学生面談への活用については、学部全体の取り組みに発展させることが望ましい。

【獣医学部】

《概評》

獣医学部では、動物生命科学を基盤とする高度な専門知識や技術・資格、豊かな人間性を備え、人類の健康と福祉の向上及び持続可能な社会の創生に向け、多様な課題を解決できる人材を育成するために学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、各学科のディプロマ・ポリシーについて、動物資源科学科及び獣医学科では修得すべき資質・能力を各 6 項目、生命環境科学科では修得すべき資質・能力を 5 項目で示している。

また、一般教育学部が管理・運営する一般教育科目では、6 つの教育目標が設定されており、これらを各学科のディプロマ・ポリシーに加えて運用している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP 値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。なお、獣医学科のレーダーチャートについては、修業年限である 6 年間の課程に対応したものとなっている。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、各学科及び各学科の学年別の平均レーダーチャートも作成しており、2023 年度の獣医学部教育委員会では、可視化された学修成果データを各教員に周知し、教育改善に活用するよう要請することを決定している。

以上のことから、獣医学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

特になし。

《課題》

現時点では、可視化された学修成果のデータを用いて、各教員に教育改善を要請している段階であり、今後、学修成果の向上を図るために、学修ポートフォリオを学部全体の取り組みとして積極的に活用していくことが期待される。

【医学部】

《概評》

医学部では、北里精神を基盤とした 4 つの基本理念の通り、専門的知識や技術とともに豊かな人間性を持ち、地域や国際社会の様々な分野に貢献できる医師を養成することとしている。そのために 9 領域からなるアウトカムをディプロマ・ポリシーとして設定し、各領域では修得すべき資質・能力の具体的な内容を示している。また、一般教育学部が管理・運営する一般教育科目では、6 つの教育目標が設定されており、これらを 9 領域に加えて運用している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP 値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、修業年限の 6 年間に対応した学年別の平均レーダーチャートも作成しており、現行カリキュラムにおいて、ディプロマ・ポリシーの各項目を満たすために必要な科目が十分に配置されていることを確認している。

2023 年度の医学部教育プログラム評価委員会では、学修ポートフォリオを活用して学修成果を把握した上で、レーダーチャートを分析した。その結果、現段階で一部に注視すべき事項があるものの、早急にカリキュラムを改正する必要性はなく、全学年の成績データが蓄積された段階で、ディプロマ・ポリシーの到達度を再度分析すると判断している。

以上のことから、医学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

学部として、学修ポートフォリオを活用し、ディプロマ・ポリシーの 9 領域について、それぞれを可視化された数値をもとに分析・検証した上で、カリキュラムの改正を検討していることは評価できる。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用することが期待される。また、学修ポートフォリオの更なる活用方法について、検討することが望ましい。

【海洋生命科学部】

《概評》

海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学門領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材を育成するために学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、海洋生命科学科のディプロマ・ポリシーでは、修得すべき資質・能力を8項目で示している。また、一般教育学部が管理・運営する一般教育科目では、6つの教育目標が設定されており、これらも学部のディプロマ・ポリシーに加えて運用している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、学年別の平均レーダーチャートも作成しており、現行カリキュラムにおいて、ディプロマ・ポリシーの各項目を満たすために必要な科目が十分に配置されていることを確認している。

2023年度の海洋生命科学部教育委員会では、学修ポートフォリオのレーダーチャートから、旧カリキュラムと新カリキュラムの学修成果を比較し、教育活動の見直しを行った。その結果、ディプロマ・ポリシーを満たすための科目配置に問題がないことを確認しており、これを踏まえ、授業科目に対応するディプロマ・ポリシーを変更しないことを決定している。また、次年度以降も、新旧カリキュラムの学修成果をレーダーチャートの比較により見直す方針であり、学修成果の把握は適切に行われている。

以上のことから、海洋生命科学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

学部として、学修ポートフォリオのレーダーチャートを活用し、8項目のディプロマ・ポリシーの到達度について、新・旧カリキュラムの比較により分析・検証した上で、授業科目に対応するディプロマ・ポリシーの配置方針を検討していることは評価できる。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用することが期待される。また、学修ポートフォリオの更なる活用方法について、検討することが望ましい。

【看護学部】

《概評》

看護学部では、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材を育成するために、学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、看護学科のディプロマ・ポリシーでは、修得すべき資質・能力を6項目で示している。また、一般教育学部が管理・運営する一般教育科目では、6つの教育目標が設定されており、これらも学部のディプロマ・ポリシーに加えて運用している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、学年別の平均レーダーチャートも作成している。

2023年度の看護学部教育委員会では、レーダーチャートを利用して、カリキュラムマップの全体的な見直しを行った。その結果、最終年度のDP到達度は前年度よりも全体的にバランスが良く、ディプロマ・ポリシーを十分に達成できるカリキュラムであることを確認した。この見直しにおいては、「2022年度学修等に関するアンケート」の結果も含めて行われた。また、看護学部では、今後もカリキュラム検討に活用する方針である。

以上のことから、看護学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

特になし。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用することが期待される。また、学修ポートフォリオの更なる活用方法について、検討することが望ましい。

【理学部】

《概評》

理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた研究者・専門技術者・教育者を育成するために、学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、物理学科のディプロマ・ポリシーでは、修得すべき資質・能力を2項目で示している。化学科及び生物科学科では、修得すべき資質・能力を各3項目で示している。一般教養科目については、一般教育学部で管理・運営する6つの教育目標のうち、理学部として開設している科目が多い「自然科学の基礎知識の修得」を除いた5つの教育目標を各学科のディプロマ・ポリシーに加えて運用している。

さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。また、各学科及び各学科の学年別の平均レーダーチャートも作成している。なお、成績不振学生のポートフォリオについては、面接記録を記入することを申合せで定めている。

2023年度の理学部・理学研究科教育委員会では、教員に対して学修ポートフォリオの活用を啓発し、精度を高めていくことを決定した。また、学修の到達度が可視化されるというレーダーチャートの利点を踏まえ、学生指導への活用内容を検討していくことも確認している。

以上のことから、理学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

特になし。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用することが期待される。また、学生指導への活用内容を検討予定であるが、その決定内容については、学部全体の取り組みとして実行していくことが望ましい。

【医療衛生学部】

《概評》

医療衛生学部では、高度医療現場のチーム医療を支えるメディカルスタッフや医療現場の外で予防医学と健康科学を主とした人の健康を支えるスタッフとして、幅広い教養と豊かな創造性に富む高度な専門知識と技術の実践力を兼ね備えた人材を養成するために、学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。これに基づき、各学科・各専攻のディプロマ・ポリシーでは、修得すべき資質・能力について、保健衛生学科で5項目、医療検査学科で4項目、医療工学科臨床工学専攻で3項目、同学科診療放射線技術科学専攻で8項目、リハビリテーション学科理学療法学専攻で5項目、同学科言語聴覚療法学専攻で5項目、同学科作業療法学専攻で5項目、同学科視覚機能療法学専攻で5項目を示している。さらには、ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。なお、一般教養科目については、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーに関連付けて運用している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。

保健衛生学科については、環境保健学コースと臨床心理学コースの2コースが設置されている。学科における5項目のディプロマ・ポリシーのうち、各コースに関連するものが1項目ずつ設定されているため、カリキュラム・マップでは各コースで4項目（他コースのディプロマ・ポリシーを除く）のディプロマ・ポリシーを科目に関連付けしており、レーダーチャートでも同様の取扱いを行っている。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、各学科・専攻及びその学年別の平均レーダーチャートも作成しており、現行カリキュラムにおいて、ディプロマ・ポリシーの各項目を満たすために必要な科目が十分に配置されていることを確認している。

2023年度の医療衛生学部教育委員会では、医療検査学科を対象として、レーダーチャートを活用した学修成果の把握と教育活動の見直しすることを決定した。そこで、医療検査学科における2020年度入学の旧カリキュラム適用学生と2022年度入学の新カリキュラム適用学生の1年次から2年次のレーダーチャートを比較して検証したところ、ディプロマ・ポリシーを満たすための科目が適切に配置されていることを確認している。

以上のことから、医療衛生学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

入学年度別にレーダーチャートと比較した際には、コロナ禍で導入された遠隔授業と対面授業での学修成果も含めて、多角的に検証していることは評価できる。

《課題》

今後、レーダーチャートを活用するための指標や基準を設定し、より一層効果的に活用することが期待される。また、学修ポートフォリオの活用について、2023年度は医療検査学科に留まっているが、年度毎の対象学科・専攻を拡大していくことが望ましい。

【未来工学部】

《概評》

未来工学部では、未来の課題を工学的手法でいち早く見出し、技術の問題だけにとどまらない複雑で広範囲な社会課題に取り組むとともに、新たな価値を創造する人材を育成するために、データサイエンス学科のディプロマ・ポリシーとして、修得すべき資質・能力を5項目で示している。ディプロマ・ポリシーの到達度については、DP値（修得科目、取得単位数、成績評価、各科目のディプロマ・ポリシーに対する重み付けの比率から計算）を基にディプロマ・ポリシーの項目別に数値化している。

一方、全学部共通の学修ポートフォリオでは、ディプロマ・ポリシーの到達度を可視化したレーダーチャート、履修科目、成績、単位取得状況、学生生活全般の状況等を総合的に記録している。なお、一般教養科目については、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーに関連付けて運用している。

このレーダーチャートを活用して、個々の学生のディプロマ・ポリシーの到達度を把握している。また、学年別の平均レーダーチャートも作成している。

2023年度の未来工学部教授会では、学修ポートフォリオを活用して学修成果を把握した上で、教育活動の見直しを検討した。その結果、現行カリキュラムにおいては、ディプロマ・ポリシーを満たすための科目が適切に配置されていることを確認した。ただし、未来工学部は開設初年度であり、同教授会では1年次前期の成績のみ反映された学修成果にて確認しているため、次年度以降も引き続き、学修ポートフォリオで可視化された学修成果の結果に基づき、教育活動の見直しやカリキュラムの検討に活用する方針である。

以上のことから、未来工学部では、学修成果を適切に把握した上で、ディプロマ・ポリシーの到達度を適切に評価しているといえる。

《長所》

特になし。

《課題》

未来工学部は開設初年度である。今後、成績等のデータを蓄積し、学修成果の把握に努めるとともに、学修ポートフォリオを学部全体の取り組みとして積極的に活用することが期待される。